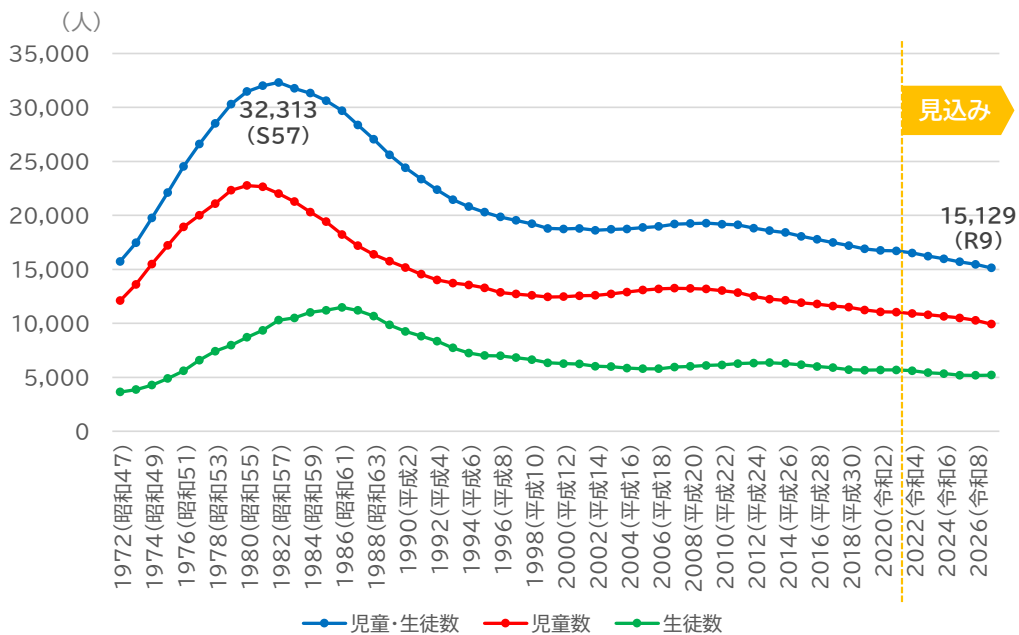


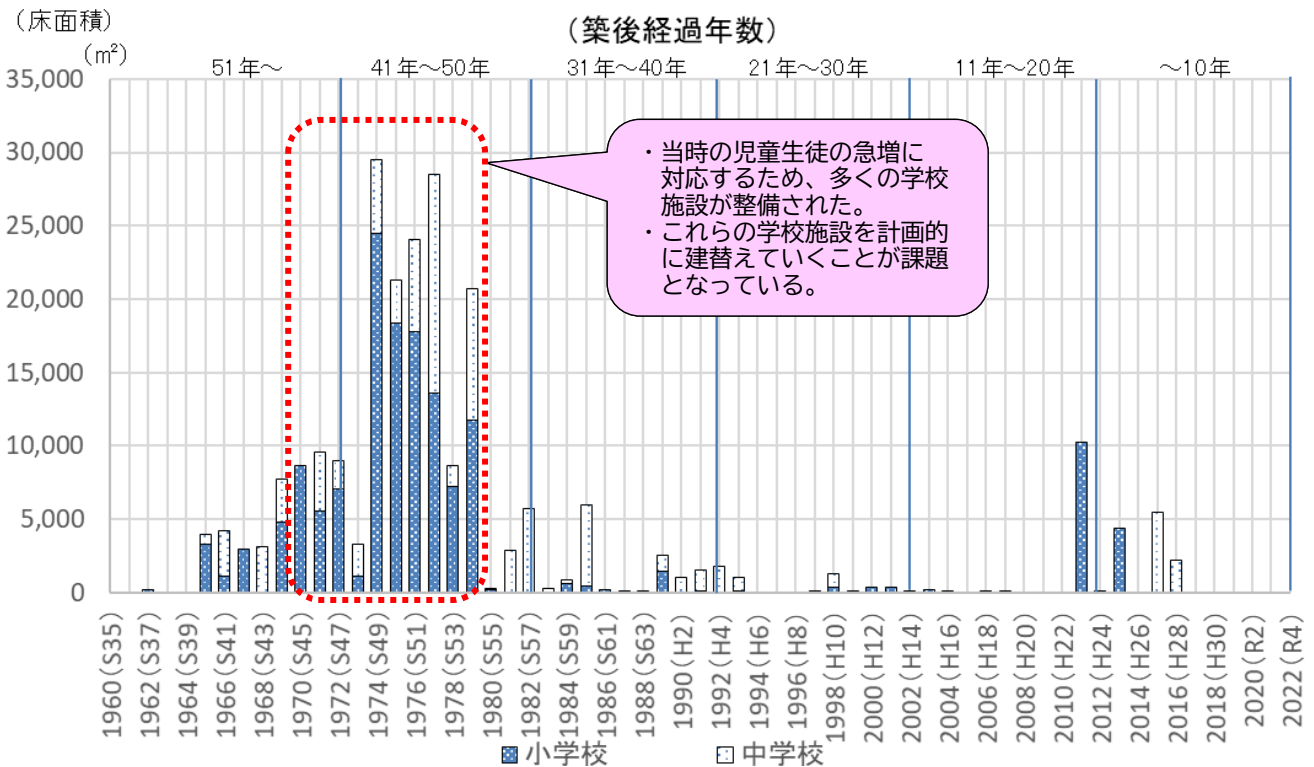
○ 市内の児童・生徒数の推移

- 児童・生徒数ともに、減少傾向で推移
- 令和9（2027）年には、ピーク時の半数以下まで減少する見込み



○ 学校施設の老朽化

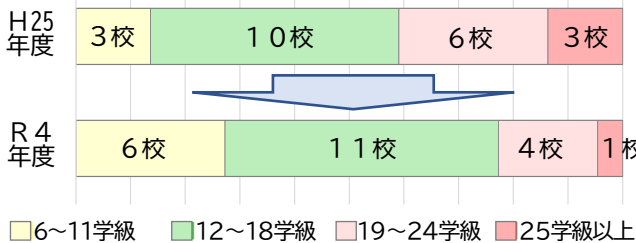
- 小中学校の多くは1970年代に整備されており、築後40年以上が経過し老朽化が進行
- これらの学校施設は建替え等が集中的に発生することが見込まれ、費用等の平準化が必要



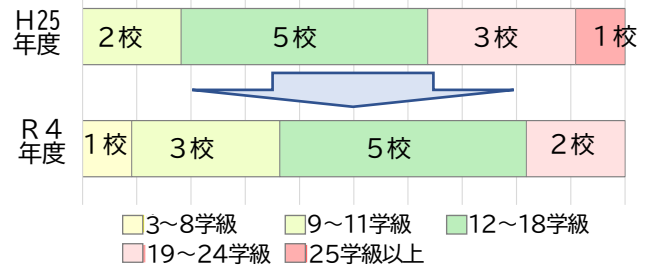
○ 市内小中学校の学校規模、令和4年度の各学校児童生徒数・学級数

- 11学級以下の小規模な学校から25学級以上の大規模な学校まで、様々な規模の学校が点在
- 小中学校ともに25学級以上の大規模な学校が減少、11学級以下の小規模な学校が増加

■ 小学校（規模別）※特別支援学級は除く



■ 中学校（規模別）※特別支援学級は除く



■ 学校別・学年別の児童生徒数と学級数（令和4年度）

小学校										中学校																
No.	学校名	上段:児童数, 下段:学級数							上段:児童数計	下段:学級数計※	No.	学校名	上段:児童数, 下段:学級数							上段:児童数計	下段:学級数計※					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支					1年	2年	3年	特支	1年	2年	3年			特支				
1	上尾小学校	89	94	80	99	60	77	15	514	12	平方東小学校	65	58	58	43	41	35	4	304	1	上尾中学校	214	268	246	18	746
2	中央小学校	100	106	77	85	80	93	12	553	13	原市南小学校	62	80	85	74	89	96	10	496	2	太平中学校	89	99	111	11	310
3	大谷小学校	95	103	104	105	131	122	15	675	14	鴨川小学校	71	69	83	82	77	73	7	462	3	大石中学校	290	311	295	6	902
4	平方小学校	41	50	38	34	55	48	7	273	15	芝川小学校	88	98	88	93	92	80	9	548	4	原市中学校	176	175	196	17	564
5	大石小学校	136	160	150	137	146	161	11	901	16	瓦葺小学校	78	73	66	64	67	64	6	418	5	上平中学校	172	184	171	4	531
6	原市小学校	97	94	96	90	110	111	14	612	17	今泉小学校	92	98	98	82	80	67	9	526	6	西中学校	166	176	177	11	530
7	上平小学校	84	78	80	69	85	68	9	473	18	西小学校	85	79	83	67	62	80	8	464	7	東中学校	236	197	223	14	670
8	富士見小学校	87	103	100	115	115	113	20	653	19	東町小学校	129	119	120	114	110	128	9	729	8	大石南中学校	53	46	69	7	175
9	尾山台小学校	30	22	27	30	28	35	8	180	20	平方北小学校	22	16	21	16	19	21	9	124	9	瓦葺中学校	125	116	121	-	362
10	東小学校	127	135	137	117	134	134	29	813	21	大石北小学校	108	129	114	118	125	120	15	729	10	南中学校	153	129	175	-	457
11	大石南小学校	25	42	46	43	33	51	10	250	22	上平北小学校	38	32	39	39	40	45	9	242	11	大谷中学校	111	105	143	8	367
		1	2	2	2	1	2	2	10(12)			2	1	2	1	1	2	2	9(11)			3	3	4	2	10(12)

※1クラスの上限人数 1~3年:35人 4~6年:40人
 ※学級数計の()は特別支援学級を含む学級数

■ 上尾市における学校規模の定義

学校規模	小学校の基準	中学校の基準
小規模校	6~11学級	3~8学級
準小規模校		9~11学級
適正規模校	12~18学級	12~18学級
準適正規模校	19~24学級	19~24学級
大規模校	25~30学級	25~30学級

出典: 上尾市学校施設更新計画基本方針 (R1.12)

○ 学校規模の適正化

- 学校では、子供たちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合う中で考える力や問題解決能力などを磨いていきます。
- 子供同士や教職員との人間関係を築く中で、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、社会性や規範意識などについて学んでいきます。



一定規模の集団生活の中で、活気に満ちた学校生活を送ることができる学校規模（学級数・教職員数）が必要

■ 学校の規模によるメリット

—学習面—

【凡例 ○：メリット】

	小規模化	大規模化
児童・生徒の一人ひとりに目が届きやすい	○	
きめ細かな指導が行いやすい	○	
個別の活動機会を設定しやすい	○	
多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて資質や能力をさらに伸ばしやすい		○
運動会などの学校行事の集団教育活動に活気が生じやすい		○
中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい		○
多様な学習・指導形態をとりやすい		○
部活動等の選択の幅が広がる		○

—生活面—

	小規模化	大規模化
人間関係が深まりやすい	○	
異学年間の縦の交流が生まれやすい	○	
クラス替えができる（豊かな人間関係の構築、多様な集団の形成）		○
組織的な指導体制を組みやすい		○

—財政面・運営面—

	小規模化	大規模化
全教職員間の意思疎通が図りやすい	○	
学校が一体となって活動しやすい	○	
施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい	○	
バランスのとれた教職員配置を行いやすい		○
子供一人あたりにかかる経費が小さい		○
清掃や管理が行き届きやすい		○

—その他—

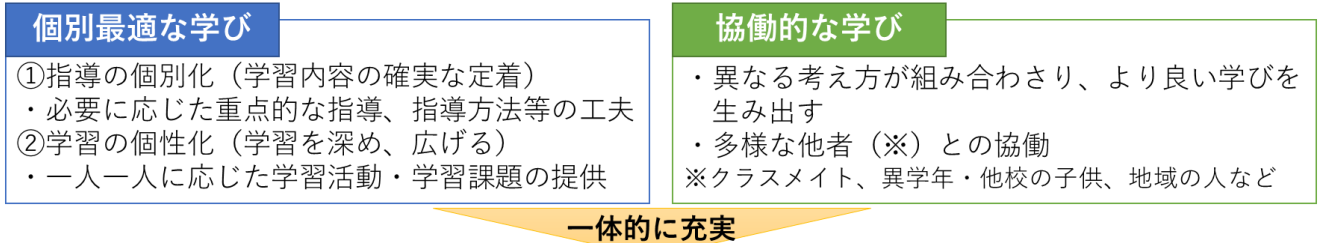
	小規模化	大規模化
保護者や地域社会との連携が図りやすい	○	
P T A活動等において保護者の負担を分散しやすい		○

※中央教育審議会 初等中等教育分科会 小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会（第8回）資料を参考に作成

○ 国の方向性「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中央教育審議会）

- 令和3年1月に「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）」を公表し、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿を提示
- 学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子供たちの可能性を引き出す、**個別最適な学びと協働的な学び**の一体的な充実

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿



それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

○ 国の方向性「新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）」

- 国（文部科学省）では、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方を検討
- 令和4年3月に最終報告書を公表し、5つの姿の方向性を提示



出典：新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 最終報告 (R4.3/学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

○ 上尾市学校施設更新計画の方向性（素案）

- 安全・安心な学校（長寿命化改修や改築により安全安心の教育環境を確保、避難所利用）
- 新しい学びに対応した学校（GIGAスクール構想の実現、最新の教育設備を備えた学校）
- 地域に開かれた学校（公共施設の複合化、体育館や校庭を地域住民・地域団体へ開放）
- 快適な学校（環境配慮した省エネルギー化、高齢者や障がい者へ配慮したバリアフリー化）

新しい時代の学びに相応しい魅力ある学校を整備し、子供たちのために「より良い教育環境」を実現